

補導という言葉を知ると、どのように思いますか？悪いことをする少年や少女を見つけて捕まえるようなイメージを持つ方が多いと思います。

しかし、補導とは、捕まえるの「捕」ではなく「補い導く」と書いてあるように、様々な問題を抱えて社会に順応できない状況にいる青少年に、支援し、導くよう寄り添うことです。

喫煙や深夜徘徊などの行動を見ると、その本人の人間性が悪いように見えてしまします。しかし、最初から非行の芽があったわけではなく、思春期などの内面的なことや周囲の環境の問題などにより、青少年自身も困り悩んでいることが問題行動につながっていることが多くあります。

非行少年の特徴については、「人との愛着関係や他人への信頼に支障がある」「我慢や感情のコントロールができない」「自尊感情が乏しい」などと指摘されています。これらは成長の中で培われていく部分でもありますので、本人の性質的な問題ではなく、生育環境などに問題があるとも考えられます。最近のニュースで重大犯罪の犯人

「補い、導く」

の生育歴に虐待があったことなどを聞くと、いたたまれない気持ちになります。

こうした中、地域では自治会や補導委員などの方々が率先し、子どもたちの健やかな成長を願って「地域の子どもは地域で見守り育てよう」と活動を行っています。子どもたちに温かく関わっていくことにより、人との愛着関係や人から必要とされたり認められたりすることが、とても大切であることを伝えていきたいと思います。

私たちはつい表面的な行動だけを見て、本人の性格にして片付けてしまうことがないでしょうか。物事の表面だけで判断するのではなく、その背景まで考えてみるように気を付けていきたいと思えます。

*このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(880・6569) まで